

薬 剤 名 ・ 種 類 ・ 商 品 名	品 種 名	剤 型	有 効 成 分 および含有率	委託者名	担 当 場 所 () 内自主試験	試験の種類；処理 方法；処理時期； 散布薬量	新継 の別 今回 判定	判 定 理 由 また は 内 容
7. S L G - 552 (つづき)						同時期N A A 剤 2 回散布, ②無散布, 非イオ ン系展着剤加用.		
8. S-3151 ・(殺虫剤) ○(アデオン)		乳	3-フェノキシ ベンジル-2,2- ジメチル-3- (2,2-ジク ロロビニル)シ クロプロパン- 1-カルボキシ レート 20%	住友化学 工 業	長野果試.	適用性試験, 生理 落果(ジュン・ ドロップ)防止効 果の検討.	新 中止	ジュンドロップ 防止効果なし.

C. 除草剤追加 (S. 51 秋冬処理)

1. DBN ・ DBN ○カソロン		粒	2,6-ジクロロ ベンズニトリル 6.7%	兼 商 北興化学 工 業	北海道中央農試, 青森りんご試, 山形農試, 福島 農試, 長野果試.	適用性試験, 秋処 理による翌春の刈 取代用と残効性, 薬害の検討; 秋季 10月下旬~11月下 旬(積雪前迄); 500, 600, 800g /a.	継 中止	〔全面処理〕 薬害の危険性大.
2. EH-275 ・ターバシル ・DCMU ○ゾーバー 粒剤		粒	EH-275 粒剤 2.5%	丸和バイ オケミカル	青森りんご試.	適用性試験, 効果 と薬害について; 秋期, 300, (400), 600g/a.	新 中止	効果なし

DPA・MCP・DCMU(45・15・15%) 水和剤(休耕田用)の判定結果について

財団法人 日本植物調節剤研究協会技術部

去る2月23日当協会専門調査委員会において、休耕田用除草剤として昭和46年度に試験実施され、その判定が保留されていたDPA・MCP・DCMU水和剤につき再審査した結果、下記の判定、使用基準が作成されたので、ここに報告する。

判定結果……「実・継」

使用基準

適 用 場 所	適 用 雑 草	適用地帯	適用土壌	使用時期	10 ^{アール} 当 使用量	10 ^{アール} 当 散布液量	使 用 方 法
連 年 休 耕 田	畑地水田1年生イネ科 及びイネ科, セリ科	全 域	砂 壌 土	4月~9月	1.0~ 1.5kg	100~	散布機で雑草及び 地表面が充分濡れ るように散布する.
隔 年 休 耕 田	多年生雑草.		塩 土	4月~7月	(1~2回)	150	

今後の課題

1. 効果, 次作物への影響(隔年休耕田)についての確認.
2. 秋冬作(作物種類と散布時期)についての検討.